

実践まとめシート（1年次）

研究グループ	小学部	実践グループメンバー	千葉、成田、花田
--------	-----	------------	----------

実践タイトル

「知的障害を有する小学部児童のエージェンシー発揮を目指した学習活動の在り方
～『他者意識』と『学習プロセス』に焦点を当てて～」

I 問題と目的

OECD（2019）は、「教育とスキルの未来 2030 プロジェクト」において、教育の中核的な概念として「エージェンシー」を提起し、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力（the capacity to set a goal, reflect and act responsibly to effect change）」と定義している。日本では「エージェンシー」に近い概念として「主体性」や「主体的」が用いられるが、白井（2023）は、これらの捉え方に曖昧さがあり、「エージェンシー」は単に個人のやりたいことを実行することではなく、他者との相互作用の中で意思決定や行動を行う点が重要であると指摘している。さらに OECD（2019）は、エージェンシーを育むために、親、教師、コミュニティ、生徒同士が相互に支援し合い、共通の目標に向かって生徒の成長を支える関係性、すなわち「協働エージェンシー」の重要性を提唱している。言い換えれば、エージェンシーを発揮するためには、他者の考えや気持ち、行動を理解し共感する「他者意識」が基盤となり、多様な他者と協力して学びを深め、共に解決策を見つけ出すことが求められている。

OECD Learning Compass 2030（仮訳 2020）では、「あらゆる学習者がエージェンシーを発揮し」と示されており、多様なニーズをもつ児童生徒にも共通の教育目標として同様に適用できることが示唆されている。つまり、特別支援学校においても、児童の実態に応じたエージェンシーの発揮を可能にする環境づくりの必要性と重要性が言える。

しかし、知的障害や自閉スペクトラム症を有する児童は、社会的な領域で他者の視点や感情を理解することの困難さ、場面に応じた適切な行動を取る難しさがある（DSM-5、2014）。そしてその「他者意識」への難しさの特性に加え、社会的・制度的な要因も影響し、限られた環境で過ごすことが多く、社会的な交流の機会が少ない傾向がある。本校小学部児童においても、例えば、他者を思い浮かべて気付く、想像する、目的を見付ける、課題達成方法を考えるなどが難しく、自分本位になりがちな児童や、教師の支援のもと「他者意識」を育てている児童がいる。またそのような特性に加え、特別支援学校の児童は、家庭、学校、放課後等デイサービスといった限られた場で過ごしており、地域との触れ合いの中で対人関係構築の機会や他者意識を広げる機会は少ない傾向にある。

本校も、令和4～5年度に研究テーマ「地域の人たちとの社会的相互作用でアップデートする子供の学び」に取り組み、児童生徒の学びや生活経験の拡大につながる成果が確認された。一方で、今後の更なる充実に向けて「プロセス」と「時間」の要素を強化する必要性が示唆された。ワーキングメモリや般化の困難さに配慮し、実態に応じた指導や支援を工夫することで、効果的なインプットとアウトカムを促すが、その間にある「プロセス」にも着目する重要性が指摘された。この研究は、地域の人々や組織と連携し、協働で学び合いながら地域の課題に取り組む地域協働型学習を意識したものだったが、結果的に協働エージェンシーにも関連しているものでもあった。

白井（2023）は2030年に向けた教育のあり方を考察するなかで、伝統的な教育とニュー・ノーマル（新常态）な教育を比較し、伝統的な教育がインプットとアウトカムを重視するのに対し、ニュー・ノーマルな教育では、インプットとアウトカムに加えてその間の「プロセス」をふまえた評価と改善を重ねる重要性を指摘している。特別支援学校の児童生徒、特に小学部段階では、学びの基礎を築くことが今後の学習におい

て重要な役割を果たすため、学習の「プロセス」を重視する傾向が一層強くなると考えられる。一方で、学習の「プロセス」の見直しは、児童にとって単なる知識の記憶にとどまらず、学びを得る過程で思考や理解を深めるとともに、問題解決のアプローチを自ら考えることで、柔軟な思考や多角的な視点を身に付ける可能性がある。言い換えれば、エージェンシーの発揮に向けた力を育む基盤となると考えられる。

これらを踏まえ、本実践では、「他者意識」と「学習プロセス」を念頭に置き、学校と地域の効果的な学びの往還を通じてエージェンシーを発揮するための学習活動の在り方を検討することを目的とする。

II 実践方法

1 対象児童について

対象児童は、小学部3年生3名、4年生3名の計6名である。軽度の知的障害のほか、自閉スペクトラム症、構音障害のいずれかを併せ有している。

多くの児童は発想力や行動力が高く、発問に対して自分の考えを他者に伝えることや他者の考えを理解しようとする姿勢が見られる。また、積極的なコミュニケーションや他者の考えを尊重しようとする態度も見受けられる。一方で、「面白そう」、「楽しそう」など自己中心的な理由で物事を捉えることが多く、他者視点での理解はまだ発展途上の段階である。また、学校の歴史学習では、全児童が過去、現在、未来の概念をおおむね理解していた。その他に、積極性や協調性、作業スピードにおいて個人差が見られる。

2 実践の手続き

(1) 指導計画

本実践の指導計画を表1に示す。令和6年9月～11月の計16時間で実施し、「他者意識」の学びが連続・発展するよう学習段階を設定して授業を構成した。

なお、児童が「これからの学校」に関心をもてるように、事前実態把握の前に、1～4の活動を実施した。主に調べ学習を行い、新聞作成のアンケートでは他者からの評価を受けることで、新聞づくりにおける他者評価と目標設定の関係を実感させた。

題材として、本校の創立50周年に関連し、生活単元学習で「ぼくたちの学校ができるまで。ぼくたちにできること」を取り上げることにした。

歴史教材は、理解や生活との結びつきが乏しいように思われるが、紙田(2021)は、小学校の生活科実践のなかで、歴史学習において学問的でない人々の語りを取り入れることが、児童に「自分と歴史」の関係を意識させ歴史とのつながりを実感させるとともに、自己を時間の流れの中に位置づけ、未来に向けてその意義を実感させていた。そこで本実践においても紙田の視点を参考とした。すなわち本題材は、自分たちの学校の歴史という身近なテーマを取り上げ、さらに学校に関わってきた外部講師との協働学習を取り入れて進めた。学習を通じて、過去に学校を築いてきた先輩、今、一緒にこれからの学校を考える仲間、これからの学校を築く後輩といった、さまざまな時間軸の人々を想像し、関わることで、時間の広がり意識しながら自分をその流れの中に位置づけようと試みた。これにより児童が、学校のためにできることを模索し、実践していくことが期待される。他者への理解を深め、「自分だけの視点」から「他者の視点」を取り入れた広い視野をもてるようになることで、エージェンシーの発揮につながると考えた。またこのとき、知的障害のある児童が対象であることをふまえ、個々の学びを深めつつ、学級の友達との対話・協働だけでなく、外部講師との協働学習の中で他者意識を広げる活動になるようにした。

(2) 検証方法

事前事後の実態把握では、3名の児童のワークシートのテキストを設問項目ごとに整理し、傾向を示す。

学習過程においては、児童の他者意識という内面意識を深く解釈するため質的研究デザインを採用する。エージェンシーの発揮に向けて、どのように「他者意識」を持ち、目的意識を形成できたかを

重視するため、学校のための活動の実践前までである、次の4場面を対象とする。“外部講師①との学習（講師①との授業・振り返り学習 表1：7～8時間目）”、“外部講師②との学習（外部講師②との授業・振り返り学習 表1：9～10時間目）”、“学びの整理（表1：11時間目）”、“これからの学校について考える学習（表1：12時間目）”の4場面における3名の児童の発言の分析に、SCAT（Steps for Coding and Theorization）法（大谷、2019）を採用する。SCAT法は、マトリクスの中にセグメント化したデータを記述し、それぞれに、①データの中の注目すべき語句、②それを言いかえるためのデータ外の語句、③それを説明するための語句、④そこから浮き上がるテーマ・構成概念の4つのステップを踏むコーディングを基に、テーマ・概念構成を紡いでストーリーラインを記述し、そこから理論記述を行う分析方法である。なお、信用性と依拠可能性、転用可能性の向上を確保するため、①～④の過程について協働実践者と十分に確認・検討を行う。

表1 指導計画

段階	時	学習内容
興味をもつ	1	○学校の「建物」の変化を知ろう！ ・過去から現在まで、学校の「建物」の変化について学習 ○調べたいことを発表しよう！ ・昔の学校について調べてみたいことを各自記入、発表
疑問発見	2	○昔の学校を自分で調べてみよう！ ・校長先生、教頭先生から記念誌や昔の写真を借りて調べる。 ・昔の写真や本を見て、分かったこと等を各自記入、発表
まとめる	3 4	○新聞をつくろう！（1号、2号） ・調べたことを新聞にまとめる。 ・各学部に掲示する。
事前	5	○事前実態把握 ・「こんな学校になったらいいな」を画用紙に各自記入 【設問項目】〈1〉どんな学校？〈2〉なぜ？ 〈3〉どうやって？〈4〉がんばりたいこと
思いを知る 繋がる	6	○昔の人（学校関係者）に話を聞いてみよう！ ～事前学習～
	7	○K先生（元教諭、校長として勤務）に話を聞いてみよう！
	8	○振り返り ・分かったこと等を各自記入、発表 ○お礼状を書こう！ ・なぜ手紙を書くのか、どんな気持ちを伝えたいか、気を付けることは何かについての話し合い ・お礼状の記入
思いを知る 繋がる 共通の思い に気付く	9	○S先生（元教諭として勤務）に話を聞いてみよう！ ・質問、学校に対する思い
	10	○振り返り ・分かったこと等を各自記入、発表 ○お礼状を書こう！ ・お礼状の記入
共通の思い に気付く 共有する	11	○これまでの学習を振り返り、分かったことや思ったことをまとめよう ～作戦会議①～ ・各自記入、発表 ・全員で分類整理して気付いたことについての話し合い
歴史する一員としての自覚	12	○これからの学校のためにできること ～作戦会議②～ ・「学校のためにできること」について各自記入、発表 ・全員で分類整理 ・「学校のため」の視点を中心に全員で話し合い、実践するものを決定 ・計画（人手、方法、準備物、依頼、報告など）
	13 14	○これからの学校のためにできること ～実践～ ・ポスター作り ・中庭のフェンスのペンキ塗り
	15	○新聞をつくろう！（最終号） ・実践したことを新聞にまとめる。 ・50周年式典で新聞1号、2号、最終号を配布
	16	○実態（事後） ※事前と同様の内容で実施

3 倫理的配慮

対象児が所属する特別支援学校は、在籍児童生徒の学びと成長を保障する他に教育実習や研究の場としての使命も担っており、あらかじめ事前に十分に説明した上で、保護者より研究協力及び成果公開の同意を書面で得ている。また、校内で個人情報の保護をはじめとする倫理的課題について十分に検討した上で本研

究の実施と公開にあたっている。

Ⅲ 指導の実際と指導・支援方法

(1) 事前実態把握 (表1: 5時間目)

「こんな学校になったらいいな」というテーマで、ワークシート(図1)に各自記入を行った。記入内容の変化を通して他者意識の広がりをつえられるよう、〈1〉どんな学校?、〈2〉なぜ?、〈3〉どうやって?、〈4〉がんばりたいこと、の設問項目を設定した。教師は、児童から表記の仕方や確認等の質問があった場合のみ応答することとした。

多くの児童が自分の好きなことを中心に記入していた。中には、「みんなが」と表現する児童もいたが、自分の好みに当てはめる形で表現する児童が多かった。児童は次々とアイデアを思いつき、30分間で1人あたり2~3枚を記入していた。

(2) 外部講師①との学習 (講師①との授業・振り返り学習 表1: 6~8時間目)

外部講師①(以下、講師①)には、本校に45年前に勤務していた元教諭を招いた。事前打ち合わせでは、昔の出来事の提示にとどまらず、当時の児童生徒の思いや、講師①の学校への思いと、これから学校を支えていく児童への期待を伝えてもらった(図2)。児童は積極的に質問し、講師①の話に興味・関心をもって耳を傾けていた。現在の学習と比較する中で、違いに気づき、「(昔の学習環境が)いいな」、「(昔の学習が)楽しそう、やってみたい」、「(昔の人は)すごいな」といった感想を述べていた。

振り返り学習において、児童は昔の学習と現在を比較しながら、主に学習活動の内容や方法の変化について、気付いたことを発言していた。多くの変化が挙げられる中で、「全部変わってきたことだけかな。変わったことしかないかな。」という発問をすると、ある児童は、講師①の学習発表会の話を出し、当時の児童も学びを楽しみ、一生懸命取り組んでいたことに気付いた。その気づきをきっかけに「変わっていないことってあるの?」、「みんなはどんな気持ちで学習発表会の練習をしている?」と発問を続けると、自分たちも、昔の人々と同じように、行事に同じ思いで臨んでいることに気付いていた。この発言をきっかけに、他の児童も、講師①から聞いた、かつての生徒たちがバスケットの全国大会で優勝した話を思い出し、選手たちが積み重ねた努力を推測した。そして、自分たちの体育の学習を振り返り、努力を重ねることのできるようになった経験に気づき、努力と成果の関係は時代を超えて変わらないこととして述べていた。

最後に、講師①の言葉を引用しながら、「学校は45年前の人々にとってどんな場所だったのか」、「どのように築かれてきたのか」について発問をすると、多くの児童が、学校の価値や歴史に気づき、多くの人との関わりに気づき、自分も学校を築く一員であるという意識をもち始める様子が見られた。

礼状では、「挑戦してみたい昔の学習」や「感謝の気持ち」、「これからの学校創造への意欲」、「分かったこと」などを記入していた(図3)。講師①には、45年前の講師①の思いと自分たちの思いの重なりを児童が感じられるよう、可能な範囲で返答を依頼した。講師①からの返事を読み、気持ちに触れ、「うれしい」、「がんばろうと思った」などと、感想を述べていた。



図2 外部講師①②との学習の様子

<p>こんな学校!!</p> <p>き、うし、く、た、すきな ものそたべたい</p>	<p>なぜ? すきなき、うし、く、た</p> <p>サイコウクカラ。</p> <p>どうやって? すきなき、うし、く、を じぶんたちでえらべる、 よろこぶ。</p> <p>ぼくわたしががんばりたいことは? おみせみたりしする。</p>	<p>こんな学校!!</p> <p>にははが、こうしこ、な、から、い、い、な</p> 	<p>なぜ? てんし、ん、ま、が、る、から。</p> <p>どうやって? い、ろ、ん、で、か、せ、い、て、か、え あ、ひ、た、ら、が、ん、せ、い、し、は、な、る、と、い、い、 な。</p> <p>ぼくわたしががんばりたいことは? ま、ご、れ、ん、す、つ せ、ん、こ、う、し、く、が、い、い</p>
--	---	---	--

図1 事前実態把握ワークシート

(3) 外部講師②との学習 (外部講師②との授業・振り返り学習 表1: 9~10時間目)

2回目の外部講師② (以下、講師②) には、本校に25年前に勤務していた元教諭を招いた。講師②は、当時の学習の様子や児童の様子を紹介した (図2)。児童は、1回目とは異なる時代の学校生活の様子を知ること、新たな興味を抱き、昔の学習への好奇心や挑戦意欲を見せていた。

振り返り学習では、講師①と同様にスライドを用い、写真などを活用しながら実施した。講師①の学習とは異なる、新たに知った昔の学習について発表していた。更に、講師①の学習を通じて児童が示した普遍的な気づきに注目して問いかけると、講師②の焼成粘土の話を出し、当時の生徒がどのように学びに取り組んでいたかを想像した。「(粘土は) 大変なのにチャレンジしていたよ」、「みんなで力を合わせて、(粘土の火の番で) 寝ないでがんばったよ」などの意見が挙がり、時代が違っても学ぶ姿勢は普遍であることに気付く様子が見られた。

礼状では、講師①への礼状の内容に加え、「もっと知りたいこと」を記入する児童もいた。45年前・25年前・現在の自分の思いの重なりを実感し、歴史のつながりやその一部としての自分の存在を感じられるように、講師②にも返答を依頼した。返事には、全員に向けた励ましのメッセージがあり、児童からは「また来てほしい」、「昔の勉強をやってみたい」といった感想が聞かれた。

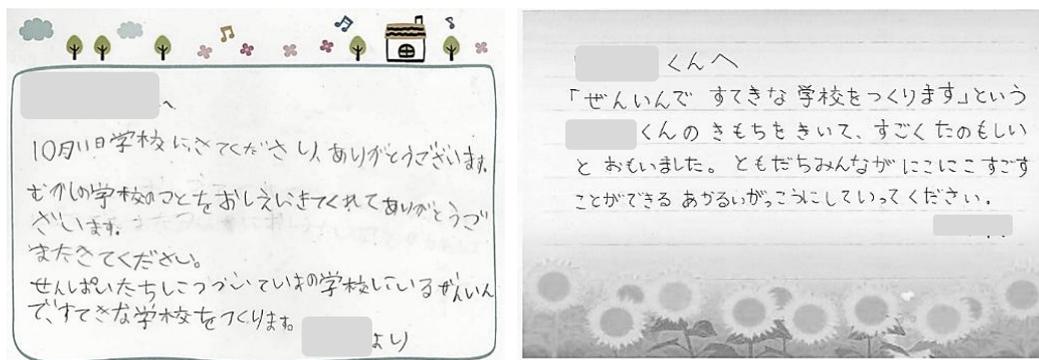


図3 講師①への礼状と返事

(4) 学びの整理 (表1: 11時間目)

自己の気づきを表現し、他者と共有し、学びの整理をするため、講師①②との学習を振り返り、「わかったぞカード」に記入を行った (図4)。ワークシートは文字や絵での記入も可能とし、講師①②との学習の振り返りを通じて、児童が気づきを見せた「普遍性」と「変化したこと」の二つの視点について、記入を促した。カードには、「プールがあった」、「アップルマラソン」などの過去の学習、「リンゴの木」、「スキー」といった現在も続く学習、更に「がんばっていた」、「挑戦していた」といった普遍的な思いなど、全員で2

9枚の記入があった。話し合い活動では、児童同士が「これは何?」、「これは一緒にいいかな?」、「こっちは変わっていない方じゃない?」などと互いのワークシートについて質問し合いながら考えを整理分類し、共有を深めた。最後に、教師とともに再度共有し、自分の考えを他者の意見と照らし合わせながら整理した。

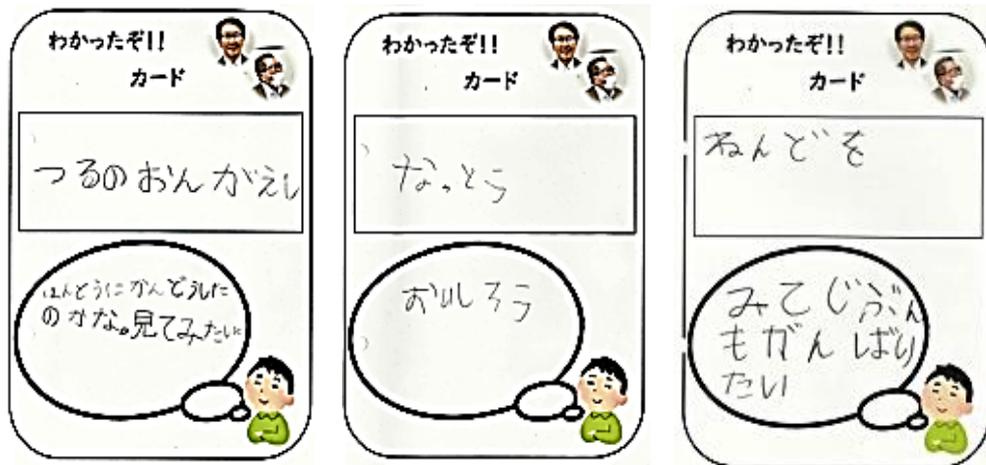


図4 わかったぞカード

(5) これからの学校について考える学習 (表1: 12時間目)

講師①②との学習を通して、「これからどんな学校になってほしいと思う?」という発問に対し、「楽しい学校」、「ケンカをしない学校」などの意見が挙げられた。「学校のためにできることカード」(図5)には、「力を合わせてスポーツが得意になる学校」、「粘土を復活する」、「芸術作品を見せ合う学校」など、全員で25枚の記入があった。

全員が記入したカードを分類・整理する過程では、互いの考えを確認し合いながら進め、思いを伝え合う姿が見られた。その後、「学校のため」という意味をより深く考えるために、教師が「学校のためとは誰のため?」、「自分のためとは何が違う?」、「誰の気持ちを考えることだろう?」と児童の発言の流れに応じて問い掛けた。すると、児童からは「自分のためとは違う気がする」、「学校みんなのことを考えること」、「自分がやりたいだけのこととは違う」といった意見が出され、活発に意見を交わした。その考えを基に実践内容を話し合うと、「パソコンは自分がやりたいことだった」、「作りたい、食べたいのも自分の気持ちかな」、「でも、作れば給食の人が喜ぶと思う」、「みんながチャレンジできるのは、みんなにとっても良いよね」といった意見が挙げられた。児童の理解の深まりには個人差があり、教師との対話を通して考えを整理する支援が必要となる児童もいたが、他者を意識した視点で検討が進められた。話し合いの結果、①「みんなが仲良くすることを伝える」、「挑戦することや頑張ることを伝える」ことに決定した。さらに、自分たちができることを考える手掛かりとして校内を散策すると、環境整備の必要性に気付く児童が多かった。その中で、中庭の剥がれ落ちたフェンスに気付いた児童をきっかけに観察を進めると、広範囲にわたって整備の必要性があることが明らかになった。そこで、②「中庭のフェンス塗り」の実施も決定した。

決定した内容を実施するにあたり、責任意識や意欲を高め、目的を確認するために、活動計画(手順、準備物、人数、場所など)について話し合った。この際、計画の基となる理由も含めて確認した。話し合いは教師が進行し、児童の思いを尊重しつつ、必要な視点を提示した。

①については、「学校みんなに『仲良くしようね』と伝えて歩く」、「話すのは大変だから、ポスターを作って知らせよう」、「ポスターならみんなに分かるように小学部・中学部・高等部に貼ろう」、「言葉で伝えたり、絵を入れたりすると分かりやすい」などの意見が挙げられた。②については、「洗剤で洗おう」、「チョークで塗ろう」、「でも雨で落ちるかも」、「自分たちだけでは大変だから、学校みんなや家の人と一緒にやるのはどうかな」など、目的達成のための具体的な方法について話し合いが進められた。最終的に、①はポ

これまで作成した新聞は、学習発表会および50周年記念式典の場において来賓や保護者に配布し、昔の学校クイズやこんな学校になってほしい内容を発表した。

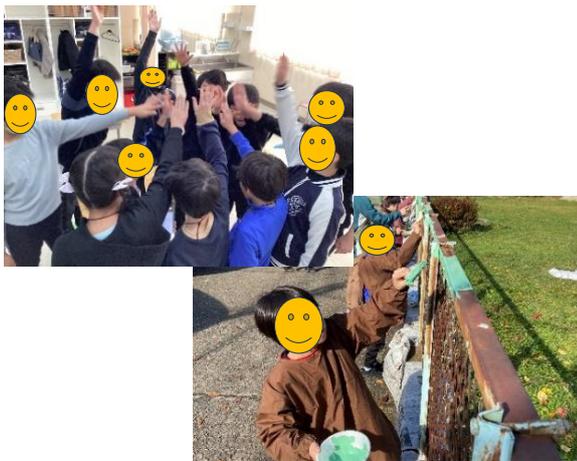


図7 フェンス塗り



図8 新聞(一部)

(8) 事後実態把握(表1: 16時間目)

事前実態把握と同様に行った。事前と違い、すぐに書き始める児童はなく、全員が紙を目の前にして、鉛筆を握りながら、考え始める様子が見られた。自分の好きな遊びやキャラクターをイメージした学校を描く児童は少なく、「きれいな学校」、「みんなが元気にいられる学校」など、講師①②との学習や学習全体を通じて得た気づきを基に発想する児童が多く見られた。各児童は1人あたり2~4枚を記入した。

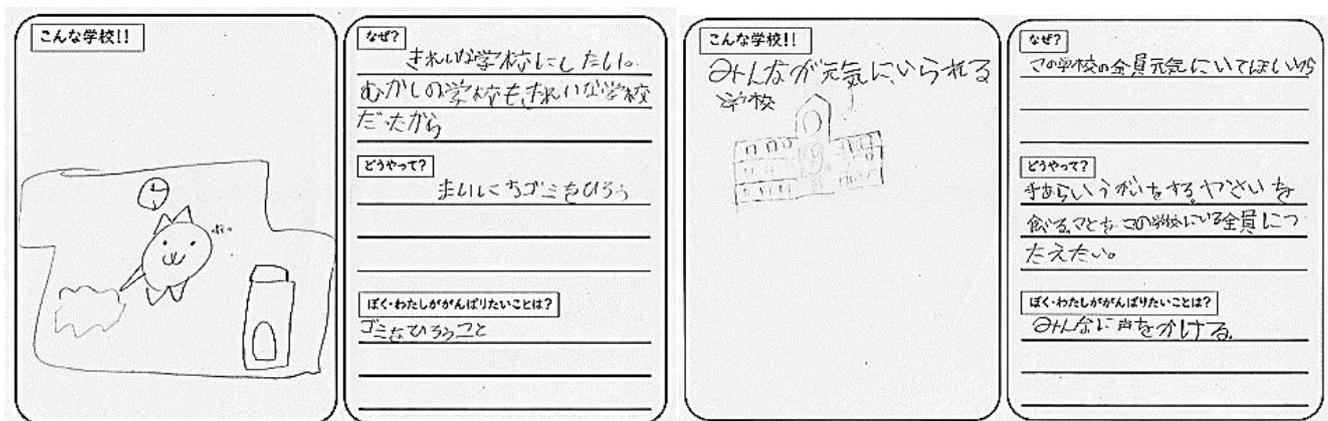


図9 事後実態把握ワークシート

IV 結果

1. 結果の整理にあたって

事前事後の実態把握では、3名の児童のワークシートのテキストを設問項目ごとに整理し、傾向を示す。また、学習過程においては、SCAT法による児童の発言の分析結果を表2、SCAT分析を通して作成された児童3名のストーリーラインを表3、ストーリーラインからの読み取り整理した児童の発言の変化を図10に示す。児童の発言の変化は、「外部講師①の学習(講師①との授業・振り返り学習)」、「外部講師②の学習(外部講師②との授業・振り返り学習)」、「学びの整理」、「これからの学校について考える学習」の4場面で整理した。なお、SCAT分析で導き出したテーマ・構成概念は【 】内に、学習内の児童の発言を引用する際は『 』内に、それらがどの児童から得られたものかを()内に示す。また、ストーリーラインから読み取った児童の発言の中心的内容を「太字・斜体」で示し、その分類を< >で示す。

分析の結果、本実践をとおして、児童の学びは、＜変化や普遍性への気付き＞、＜考えの共有＞、＜昔や今の学習への意欲＞、＜未来の学校への思考＞の4つに分類された。これら4つのうち＜変化や普遍性への気付き＞は、“外部講師①との学習（講師①との授業・教師との振り返り学習”から“教師とのこれからの学校について考える学習”にかけて学びの連続性、発展性が見られた。この学びの連続性・発展性により、“教師との学びの整理の学習”、“教師とのこれからの学校について考える学習”において、児童の学びが＜昔や今の学習への意欲＞から、＜変化や普遍性への気付き＞へとシフトしていった。また、＜考えの共有＞をとおして、＜変化や普遍性への気付き＞への深化も確認された。以下では、児童の発言とその変化、さらに各発言内容との関係について説明する。

2. 事前実態把握

児童3名のワークシートの設問1、2の記入内容を表2に示す。設問1では、「タブレット」、「ポケモンカード」などの自分が好きな遊び、「ニャオハ」、「虫」、「虹」、「食べ物」、「給食」などの自分が関心があるものを基に、学校のイメージを膨らませる傾向が見られた。設問2では、「タブレットが楽しいから」、「テンションがあがるから」、「虫になりたいから」など、半数が自分の感情を理由にして挙げていた。また、「みんなが喜びそうだから」、「みんながにこにこするから」といった回答は、一見、他者を意識しているかのようにも思うが、設問1の回答と関連付けると、自分の好きなものを基準に発想している側面も見られる。

表2 「こんな学校になったらいいな」(事前)

	Q1 こんな学校	Q2 なぜ
A	タブレットを自由に持っていける学校 給食が好きなものを食べられる学校	学校、タブレットが楽しいから 好きな給食が最高だから
B	ニャオハがいる学校 ポケモンカードがある学校 お金がいっぱいある学校	テンションがあがるから みんなが知っているから みんなが喜びそうだから
C	虹の学校 虫の学校 食べ物の木がある学校	みんながにこにこするから 虫になりたいから みんながお腹がすいたら食べるから

3 学習過程

(1) “外部講師①の学習（講師①との授業・振り返り学習）”における発言内容

講師①から昔の学習について話を聞く中で、【今との変化に対する意外性の発見と驚き】(A、B)や【経験のある活動】(C)に気付きが見られたため、「昔の活動」への気付きと判断した。また、昔の児童生徒の実績や活動の様子を聞き、【称賛と尊敬】(A)や【昔の成果への喜びと共感】(C)の気持ちをもっていたことから、「昔の人への思い」の気付きがあったと判断し、これらを＜変化と普遍の気付き＞に分類した。更に、未経験の活動に対して、【消極的な反応】(A)や【恐怖と不安】(C)を示す場面も見られたが、それ以上に【興味・関心と未経験の活動への挑戦心】(A、B、C)や【好奇心】(A、C)をもち、【興味の多様性】(A)も表れていた。また、昔と今の学習を比較し、【昔の学習への憧れ】(A、C)や【昔の学習環境への憧れ】(A、C)を述べていたため、これらを、「昔の学習活動」への意欲があると判断し、＜昔や今の学習への意欲＞に分類した。

振り返り学習において、講師①の学習をスライドで振り返る中で、【校外学習】(B、C)、【地域イベントへの参加】(A、C)、【過去の実績】(C)を思い出し、「昔の活動」への気付きがあったと判断した。昔の生徒の大会実績に対しては、【団結と努力の成果】(A)、【日々の努力と成果】(C)として捉え、更に、【変化と努力、真面目さの普遍の共存】(B)という視点や、【見習いたい努力の精神】だと述べていたことから、これらを

「昔の人の学びの姿勢・普遍的な学びの姿勢」への気付きと判断した。講師①が抱く学校への思いについては、【ポジティブで温かい学びの環境】(B、C)や【心地よさを感じる場所】(A)として、児童に「学校の価値」への気付きがあったと判断した。また、講師①から学校の歴史や築き方について話を聞く中で、【歴史と協力のつながり】(A、B)を知り、【協同的な学校創造の認識】(A、B、C)をもったことから、これからの学校について【学校創造への自己の希望と意欲】(A)や【協同的な学校創造への向上心】(B)をもち、「学校創造」への気付きがあったと判断した。これらを、＜変化と普遍の気付き＞に分類した。また、昔の学習に対して【興味・関心と未経験の活動への挑戦心】(A、B、C)をもち、【昔の学習への憧れ】(A、B、C)だけでなく、【昔の学習環境への憧れ】(A、C)も述べた。また、【学習環境の比較と今への願望】(B)を挙げたことから、「昔や今の学習活動」への意欲と判断し、＜昔や今の学習への意欲＞に分類した。

(2) “外部講師②の学習（講師②との授業・振り返り学習）”における発言内容

講師②と行った焼成粘土に触れる体験を通じて、児童は【想定外】(A)の重さに気づき、【想定外と驚き】(B)といった反応を示し、「昔の活動」への気付きがあったと判断し、これを＜変化と普遍の気付き＞に分類した。講師①とは異なる昔の学習活動を聞いたことで、【好奇心】(A、B、C)や【興味・関心と未経験の活動への挑戦心】(B、C)、今の環境での学習の【可能性への期待】(A)や【未経験な活動への好奇心とアイデア】(C)を抱いていた。また、【昔の学習への憧れ】(C)や【憧れと共感】(B)も見られたことから、「昔や今の学習活動」への意欲と判断し、＜昔や今の学習への意欲＞に分類した。

講師②の学習をスライドで振り返る中で、【地域の祭り】(A、B、C)、【作業学習】(C)、【身近な生活とのつながり】(A)のある学習、【未経験な活動】(A、B)を思い出し、「昔の活動」への気付きがあったと判断した。講師②の焼成粘土の火の番を生徒が行っていた話に対しては、【協力とチームワーク】(B)、【共通の目標に向かう意識】(B)を、ねぶたの行事参加に対しては、【挑戦と克服】(C)として捉えていた。さらに、この学びの姿勢を、【普遍的な「努力」と「協力」の精神】(A)とし、【見習いたい積極的な学びの姿勢】(B)と認識していたことから、「昔の人の学びの姿勢・普遍的な学びの姿勢」と判断し、＜変化と普遍の気付き＞に分類した。児童相互で考えを共有する場面では、【友達の意見との共通点の認識】(A)や、特定の学習が苦手な【友達への配慮】(B)が見られたことから、「友達の意見の認識」があったと判断し、＜考えの共有＞に分類した。

(3) “学びの整理”における発言内容

講師①②の学習を通じて分かったことをワークシートに記入し、児童相互で共有した後、全体で再度共有する場面では、【昔の先輩たちの学習への感情の推測】(A)をし、【継続的な努力】(A)や【夢と目標に向けた努力】(A)の精神、【学びへのポジティブな態度の普遍性】(A)、【指導と学び】(C)という教師と児童生徒の関係に気付いていた。また、それらの姿勢に対して、【見習いたい努力の姿と自己の向上心】(A)をもち、【成長のための努力】(B)をしたいと述べていたことから、「普遍的な学びの姿勢」への気付きがあったと判断した。更に、講師①の話を読み出し、【思い出としての価値】(A)のある学校だと捉えていたことから、「学校の価値」への気付きがあったと判断した。また、これからの学校について、【世代の継承】(B)をし、【一緒に学校を築く仲間】(A、B)と【協同によるこれからの学校の形成】(A、B)を意識していたことから、「未来への学校創造」への気付きがあったと判断した。これらを、＜変化と普遍の気付き＞に分類した。

共有する際には、友達の【考えの共感と一致】(B)を示し、【周囲との共有と確認】(C)や【変化と継続の確認】(C)、【昔と今の比較】(C)を行いながら、【思考の整理】(C)をしていたことから、「分類と整理」をしていたと判断し、＜考えの共有＞に分類した。

また、講師①②から聞いた昔の学習に対して【興味・関心と意欲】(B、C)をもっていたことから、「昔の

「学習活動」への意欲があったと判断し、＜昔や今の学習への意欲＞に分類した。

(4) “これからの学校について考える学習” における発言内容

講師①②との学習および学びの整理の学習を通して、【協調的な学校】(A)、【チャレンジ精神ある学校】(A)、【友好的で安心感のある学校】(B)、【安心感のある学校】(C)を築きたいと述べたことから、「築きたい未来の学校」への気付きがあったと判断した。また、そのために、【友達関係の重要性と友達づくりの関連性】(A、B、C)や【感情のコントロール】(B)、【対話による解決の重要性】(B)、【協同のチャレンジ精神】(A)の必要性を述べた。更に、【自分の枠割の遂行】、【目標と成長】(C)、【美化活動】(A)の大切さにも触れ、「学校のためにできること」への気付きがあったと判断した。児童は、「築きたい未来の学校」を実現するために、【視覚的な共有方法】(B、C)で【価値観の共有】を図り、【伝達と共有】の方法として、【共有場所】(B)や【デザインの工夫】(A)の必要性に気付いていた。また、【美化活動】(A)の広範囲な取り組みに対し、【挑戦と克服】(C)をするために、【協同での問題解決】(B)や【協力と分担】(A、B、C)の必要性を述べ、【塗装・洗浄の環境整備方法】(A、C)や【色に関する自己表現】(A、C)の工夫も考えていた。これらのことから、「具体的方法」への気付きがあったと判断した。更に、「学校のため」の意味についての話合いでは、児童は【学校全体の目的と自己欲求の区別】(B)や【自己成長と学校貢献の比較】(A)を通じて、【学校全体の目的と自己欲求の違い】(A)に気付き、【学校全体のための行動】(B)について考えていた。また、【自己の目的と他者のための行動の共存】(B)や【自己欲求】(C)にも気付いていた。このことから、「『学校のため』の意味」への気付きがあったと判断した。これらを＜未来の学校への思考＞に分類した。

児童相互の共有、全体の再共有の場では、友達と【比較と確認】(B、C)、【分類と整理】(B、C)、【共感】(A、C)、【推理と整理の判断】(A)を行いながら、【人間関係の視点での整理】(A、B)、【作業学習での整理】(A、B)、【学習内容の視点での整理】(A)、【未来の視点での整理】(A)、【学びの成長と挑戦の視点での整理】(A)を進めていたことから、「視点による分類・整理」をしていたと判断し、＜考えの共有＞に分類した。

また、昔の学習に対しては、【復活の願望】(B、C)、【未経験な学習の体験】(C)を望んでおり、「昔や今の学習活動」への意欲があると判断し、＜昔や今の学習への意欲＞に分類した。

表3 SCATによる児童の発言の例 [児童A：外部講師①の学習(講師①の授業と振り返り)]

番号	テキスト	<1>テキスト中の注目すべき語句	<2>テキスト中の語句の言い換え	<3>左を説明するようなテキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)
1	(「昔のことについて何で調べてきましたか」の発問に) なんか昔の本とか、えっとiPadで調べて、その写真を見たこと。	調べて/見た	調査する/目にする	調べ方	調べ方
2	(「誰から教えてもらいましたか」の発問に) 外部講師①、外部講師②	外部講師①②	外部講師の二人	外部講師の学習	外部講師による学習
3	(昔のこと、今のこと、変わらないことの3つについて書かされたことを書く活動) 味増かこう。	書こう	記入しよう	考えの表出	自分の考えの表出
4	(全員のワークシートを見る活動) プールは、楽しかった。楽しかったと思うし、今はないけど、楽しいと思うから、だからまだかわってない。	楽しかったと思う/今はないけど/変わっていない	いい気持ちだったと思う/現在はないが/普通	感情の推測 ・普通のこと	・昔の先輩たちの学習に対する感情の推測 ・楽しさの普遍性
5	宿泊の写真めちやくちやいい願してたよ。	めちやくちやいい願	満足気	ポジティブな感情	ポジティブな感情の推測
6	なめこ嫌だ。なめこ好きなんだけど。納豆が嫌だ。俺、納豆好き嫌い。	嫌だ	苦手	好き嫌い	好き嫌い
7	(「〇〇さんが前に変わらないことがあるって言ってたけど、変わらないことはありましたか？」の発問に) 俺、勉強が楽しいって言うのも変わらないんじゃないってこと	勉強が楽しい/変わらない	学習することが面白/不変的	・学習に対するポジティブな態度 ・不変的	学びへのポジティブな態度の普遍性
8	(児童の発言から「昔の人はなんのためにこんなに色んなことしていただろうね？」の発問に) いやー、なんか見てる感じだと、大人の自分の壮大の夢を目指して、勉強をいっぱいやって、やって、やりたいことを続けてやってる。	自分の壮大な夢を目指して/勉強いっぱいやって/やりたいことを続けてやってる	自分の大きな夢を目標に/学習に いっぱい取り組んで/行いたいことを 継続して取り組む	・夢と目標に向けた努力 ・興味・関心 活動の継続	・夢と目標に向けた努力 ・継続的な努力

表4 学習における児童の発言のストーリーライン

	A	B	C
児童			
外部講師① 授業	<p>講師への認識があった。自己紹介や挨拶を行った。講師に質問をされ、予想、経験を踏まえた回答をした。昔の学校に好奇心をもち、今の変化に対する意外性の発見をした。昔の学習を知り、興味・関心の多様性、興味・関心と意欲、興味・関心と未経験な活動への挑戦心が見られ、自己の優先順位を見出した。昔の大会実績に、称賛と尊敬の気持ちを示した。昔と今の比較をし、中には消極的な反応の活動もあったが、昔の学習への憧れ、昔の学習環境への憧れをもっていった。最後に、講師へ感謝を伝え、講師と学校クイズを通して楽しさの共有を図った。</p>	<p>自己紹介や挨拶を行った。再会した元校長の講師も自己紹介クイズに参加しており講師の意外性の発見をした。講師に質問をされ、経験のある活動、予測の確認、経験を踏まえた回答をした。昔の学校の話聞き、今の変化への意外性の発見と驚き、昔の学習への憧れ、興味・関心と未経験な活動への挑戦心をもった。講師の外見について、(昔の講師の)予想と現実のギャップに驚いた。講師に「これから楽しみなこと」を質問され、未来への期待を語った。学習後、感謝の気持ちを伝え、学級紹介や新聞クイズを通して楽しさの共有を図った。最後は、別れの挨拶と再会の期待を伝えた。</p>	<p>自己紹介や挨拶を行った後、講師に、来校の予定確認した。講師の話に、興味・関心をもち、好奇心があった。講師に質問をされ、時間経過の認識、面識のある地域人材について、経験を踏まえた回答や感想を述べた。昔と今を比較し、継続している活動や経験のある活動に気づき、中には、恐怖と不安を抱く活動もあったが、多くの活動に興味・関心と未経験な活動への挑戦心、昔の学習への憧れ、昔の学習環境への憧れを示した。大会実績については、昔の成果への喜びと共感を示した。講師の特徴の認識を基に、昔の写真から探し出し、比較し、楽しんだ。「楽しみなこと」を質問され、予定していた「買い物学習」を伝えた。最後に、講師が児童に応援の言葉を掛けると、前向きな気持ちで受け取り、未経験な活動への挑戦心、学びの喜び、感謝を伝えた。授業終了後は、学級の活動紹介をして、楽しさの共有を図ったり、更に昔のこの質問をしたりして好奇心が見られた。別れ際には、別れの挨拶と再会の期待を伝えた。</p>
外部講師① 振り返り	<p>不確かな記憶や予測の確認をしたり、確かな記憶や記憶から推測をして、地域イベントへの参加や経験のある活動、友達への広がりや育むという認識の交流学習について発表した。昔と今の比較による昔への憧れや昔の学習への憧れ、興味・関心と未経験な活動への挑戦心を感想として述べた。大会実績については、困難と努力の成果に気付いた。変化を問う発問への理解の難しさが見られたが、不変を問う発問には、大会実績を例に挙げ、努力と成果、見習いたい努力の精神を述べた。学習全体を振り返り、講師にとって学校は、心地よさを感じる場所だと捉え、学校については、協同的な学校創造の認識をもち、歴史と協力のつながりと学校創造への自己の願望と意欲を述べた。</p>	<p>記憶の空白もあったが、特別な行事に関する学習や校外学習など授業の記憶から推測したり、写真を見て、経験した活動について話した。学習を通して、昔の学習への憧れ、昔と今の学習環境の比較と今への願望、興味・関心と未経験な活動への挑戦心を述べた。変化を問う発問には、活動の変遷を挙げた。不変を問う発問には、変化と、努力と真面目な普遍さの共存について発表した。学習全体を振り返り、講師にとって学校は、ポジティブで温かい学びの環境だと捉え、学校は協同的な学校創造の認識をもち、歴史と協力のつながりと協同的な学校創造への向上心をもった。</p>	<p>不確かな記憶や記憶の空白があったが、校外学習や地域イベントの参加、過去の業績、友達の広がりや育むという認識の交流学習など、記憶にあるものを発表した。その中で、興味・関心と意欲や興味・関心と未経験な活動への挑戦心、昔の学習への憧れも話した。変化を問う発問への理解の難しさが見られたが、不変を問う発問には、大会実績を挙げ、且々の努力と成長と成果や活動への喜び、交流学習における相手との関係性構築の大切さを述べた。学習全体を振り返り、講師にとって学校はポジティブで温かい学びの環境だと捉え、これまでの学校について、協同的な学校創造の認識をもった。</p>
外部講師② 授業	<p>自己紹介や挨拶後、講師①の学習内容について質問をされ、餅つきの時期や全国大会に参加を発表した。質問をされると、昔の学習に対する自分の気持ちを思索したり、経験を踏まえた回答をしたりした。昔の学習への憧れをもち、同じ学習を行う可能性への期待を抱いた。実際に土粘土作品を目にする、好奇心をもち、想定外の重さに驚いた。学習を終え、学びの充実感、別れの挨拶と再会の期待を伝えた。</p>	<p>一度来校があり、講師と面識があった。自己紹介後、講師①の学習内容について質問をされ、餅つきの時期を答えた。昔や今の学習について質問をされ、地域の祭りへの参加経験、経験のある活動など、経験を踏まえた回答をした。土粘土の作品に触れる際は、好奇心をもち、重さに対して、想定外と驚きを見せた。昔のほとんどの学習に対して、興味関心と意欲や興味関心と未経験な活動への挑戦心をもっていた。</p>	<p>自己紹介や挨拶後、講師①の学習を質問され、昔の学校行事を発表した。昔や今の学習について質問をされ、経験を踏まえた回答をした。昔の学習に興味・関心と意欲、好奇心をもち、何度も講師に質問をした。昔の学校について知り、中には困難の予測をする活動もあったが、昔の学習への憧れや興味・関心と未経験な活動への挑戦心をもち、地域行事への積極的な関心と参加や未経験な活動への好奇心とアイデアを話した。苦手な活動がある友達への配慮もあった。本物の土粘土の作品見学では、興味・関心を示し、触れたい感想を話した。学習を終え、別れの挨拶と再会の期待を伝えた。</p>
外部講師② 振り返り	<p>記憶の空白があるものの、学習の記憶から、身近な生活との繋がりがあがる学習、地域の祭り、未経験の活動を発表した。知り得たことについて観察と連想をした。学習を通して、昔の学習への憧れや興味・関心と未経験な活動への挑戦心を抱いた。学習によって自分の好き嫌いはあるものの、不安と挑戦心の共存する気持ちを示した。講師①と同様の、不変を問う発問には、昔の学習に困難の予測や挑戦の不安を抱いたが、友達の意見との共通点の認識により、普遍的な「努力」と「協力の精神」について見出した。</p>	<p>学習の記憶を手掛かりに、地域の祭り、地域イベントへの参加、図上の学習活動、果樹、田んぼについてや、未経験な活動があったこと、昔の学習に対する困難の予測を述べた。学習内容によって好き嫌いはある様子だが、同じように内容が苦手な友達への配慮もしながら、興味関心と未経験な活動への挑戦心を見た。講師①と同様の、不変を問う発問には、継続している活動に加え、「努力」の精神や協力とチームワーク、共通の目標に向かう意識を挙げ、見習いたい積極的な学びの姿勢について発表した。</p>	<p>作業学習や地域の祭りについて記憶から推測して答えたり、好奇心をもって質問をしたり、昔の学習への憧れや昔の学校環境に対する憧れについて述べた。高等部の活動に困難の予測を示したが、作業学習には、興味・関心と未経験な活動への挑戦心、協力と挑戦の姿勢が見られた。講師①と同様の、不変を問う発問には、児童生徒の人数の変化と挑戦と克服について述べた。</p>
気付きの整理	<p>調べ方や外部講師による学習を行ったことを思い出した。「わかったぞカード」の記入活動では、自分の考えの表出があった。互いのワークシートを見合う活動では、昔の先輩たちの学習への感情の推測をし、ポジティブな感情の推測をしたり、楽しさの普遍性に気付いた。昔の学習内容に対する自分の好き嫌いを友達に伝えた。全体の話し合いでは、再度、学びへのポジティブな態度の普遍性を述べた。また、先輩たちの夢と目標に向けた努力や継続的な努力について述べ、見習いたい努力の姿と自己の向上心を抱いた。これからの学校について、協同によるこれからの学校の形成が必要であることに気付き、全校児童生徒の写真を見て、一緒に学校を築く仲間の名前を呼んだ。みんなにとって思い出としての価値ある学校だと発表した。</p>	<p>調べ方や学習のまとめ(新聞)を作成を思い出した。「わかったぞカード」の記入活動では、記入内容に迷いながらも自分の考えの表出をした。互いのワークシートを見合う活動では、友達との共感と一致、普遍性の認識をしたり、興味・関心と意欲について話したりした。全体の話し合いでは、成長のための努力について述べた。これからの学校について、協同によるこれからの学校の形成と世代の継承について述べ、全校児童生徒の写真を見ながら、一緒に学校を築く仲間の名前を呼んだ。</p>	<p>調べ方や学習のまとめ(新聞)、外部講師による学習を思い出した。「わかったぞカード」の記入活動では、やりたいことを中心に自分の考えの表出が見られた。互いのワークシートを見合う活動では、昔と今の比較をしたり、周囲との共有と確認、ワークシートの整理の場所の認識、思考の整理をしたりした。変化と継続の確認をし、興味・関心と意欲を見せた。不変を問う発問には、変化と継続の観察をし、変化と不変の認識(果樹)や共感の意識、指導と学びに気付いた。</p>
学校のためにできること話し合い	<p>発問に対する思考をし、未来の学校について協同的な未来志向で考えた。「みんなが学校のためにできること」には、友達への共感や条件付き許可の学習を記した。非言語的表現もあり、教師に共感の理解の模索をした。分類、整理の活動では、学習内容の視点での整理、人間関係の視点での整理、未来の視点での整理、学びの成長と挑戦の視点での整理、作業の視点での整理をしたり、友達との対話を通じて認識と確認や推測と整理の判断、共感をしたりした。全体での話し合いでは、自己成長と学校貢献の比較や学校全体の目的と勉強の区別、学校全体の目的と自己欲求の違いについて考えたり、それらの考えを基に学校全体の目的ではない認識の考えに疑念をもち整理し、チャレンジ精神ある学校、より良い友達関係の学校にするために、共同のチャレンジ精神や友達関係の重要性を挙げた。その中で自分たちができることとして、ポジティブな人間関係を挙げ、価値観の共有をするためにみんなに伝達することやポスターで創意工夫することを述べた。その他には、美化活動を挙げ、校内で環境整備課題の発見をし、デザインの工夫や色に関する自己表現をしながら環境整備の必要性や協力と分担によって実施することを述べた。</p>	<p>未来の学校について、友好的で安心感のある学校になってほしいと考えた。「みんなが学校のためにできること」として、これまでの学習の記憶を思い出して、復活してほしい学習を記入した。その後、友達と考えを共有したり、比較と確認や認識と確認をしたり、復活の願望を伝えたりする中で、人間関係の視点での整理、作業の視点での整理の分類と整理を行った。全体での話し合いでは、学校全体の目的の明確化や学校全体の目的と自己欲求の区別、自己の目的と他者のための行動の区別、学校全体の目的の行動の視点で考え、友達関係の重要性を挙げた。このことについて共有方法として、共同での問題解決や視覚的な共有方法など伝達と共有の仕方を挙げた。また、実現するために感情のコントロールの必要性や対話による解決の重要性についても述べた。その他には、校内で、環境整備課題の発見をし、色に関する自己表現や協力と分担など、環境整備の方法を述べた。</p>	<p>「みんなが学校のためにできること」について、自分の役割の遂行や目標と成長、未経験な学習の体験、復活の願望、興味・関心と未経験な活動への挑戦心など、非言語的表現も含めて自己表現した。全員の見解を比較と確認、分類と整理をした。全体での話し合いでは、友達関係の重要性と快・不快な感情の関連性を述べたり、友達の質問に、自己欲求であることを伝えたり、安心感のある学校を創りたいことを話したりした。みんながまとめたことを視覚的な共有方法で全校の人に伝えることを提案した。また、その他には、校内の環境整備が必要な箇所について、友達の意見に共感し、洗浄の環境整備方法や塗装の環境整備方法について述べた。</p>

※下線で示した部分はSCAT分析で導き出したテーマ・構成概念である。

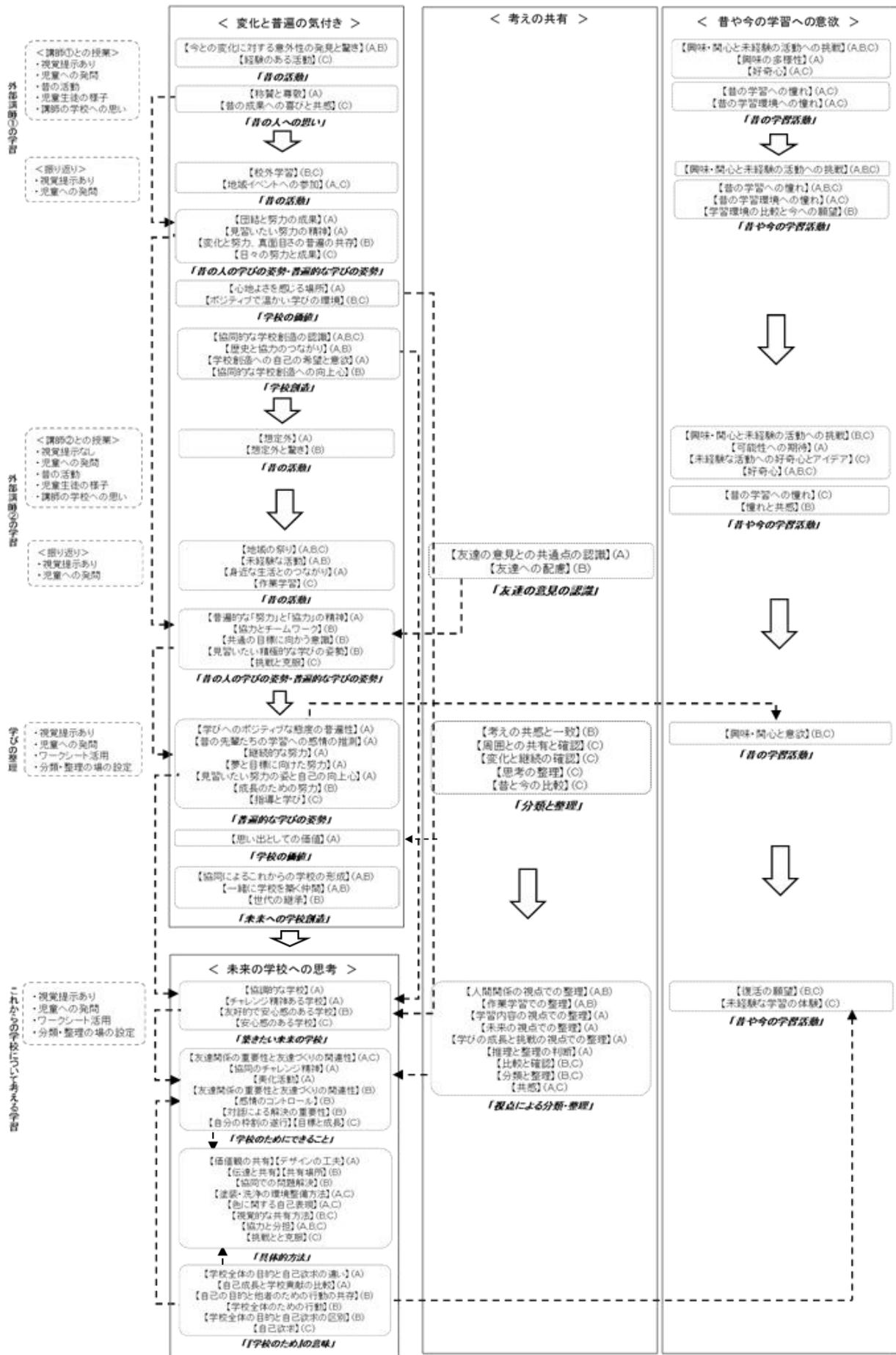


図 10 児童の発言の変化

< 発言内容の分類 > ・ 「発言内容」 ・ 【テーマ・構成概念】 ・ (児童) ・ ⇨ 変化の方向 ・ - - ▶ 関連の方向

(5) 児童の発言の変化と相互関係

①<変化と普遍の気付き>の変化と相互関係

“外部講師①の学習（講師①との授業・振り返り学習）”において、講師①から聞いた昔の生徒の大会実績に対して、『かなりすごい』(A)、『金メダル。やったー』(C)と感想を述べ、【称賛と尊敬】(A)の気持ちや、【昔の成果への喜びと共感】(C)を示し、「昔の人への思い」の気付きを得た。振り返り学習では、『マラソンだ』(A)、『温泉』(C)など、今と変化した「昔の活動」を発言する一方、『やることは変わっているけど、変わったけど、変わらない。頑張ることは変わってなかったんじゃない?』(B)と述べ、【変化と努力、真面目さの普遍の共存】(B)があることに気付く場面があった。他の児童も、児童同士で考えを共有する中で、『一生懸命練習して試合やった。試合じゃなくて本番。一生懸命練習して、だんだんシュートできるようになった。』(C)と、成果を発揮する過程を想像し、【日々の努力と成果】(C)や【団結と努力の成果】(A)などの関連性に気付いた。その後、『頑張るとできるようになった。ぼくたちも練習する。』(A)と、自分に置き換えて、【見習いたい努力の精神】(A)に気付く児童も見られた。このように、振り返り学習をとおして、「昔の人への思い」の気付きが具体化され、「普遍的な学びの姿勢」への気付きへ理解が深まった。

次に、“外部講師②の学習（講師②との授業・振り返り学習）”において、児童は講師②が挙げた粘土焼成活動の火の番を行った生徒たちの体験を振り返り、『地獄。大変。くまできそう、くまが。きびし過ぎるよ。』(B)、『夜ご飯食べれないの?やばい、地獄。え、大変そう。』(C)と当時の過酷さを感じ取る一方で、『粘土のやつを高等部で頑張って、夜中も朝までやって、頑張ったよ。』(B)、『みんな、一人だと、あまりできないと思うから、力を合わせる友達と。一人だとできないことは、みんなでできる。難しいことは。』(A)といった言葉から、先輩たちの活動を想像し、【共通の目標に向かう意識】(B)をもち、【協力とチームワーク】(B)の大切さを実感していた。これらは、【普遍的な「努力」と「協力」の精神】(A)であると気付き、【見習いたい積極的な学びの姿勢】(B)をもつ児童も見られた。また、『ねぶたが難しすぎて、でもチャレンジしたらできるようになった。』(C)と述べ、【挑戦と克服】(C)の精神を感じ取り、昔の人々の姿に共感していた。講師①との学習で得た「昔の人への思い・普遍的な学びの姿勢」の気付きが、講師②との学習を通じてさらに深化し、他の児童の気付きにもつながった。さらに、<考えの共有>の場では、『ちょっと、〇〇くんと、ちょっと同じなんだけど、』(A)と、【友達の意見との共通点の認識】(A)をし、「友達の意見の認識」をすることで自己の思考が広がる様子も見られた。

“学びの整理”の学習段階では、講師①②から得られた気付きを児童相互で共有する場面で、『宿泊の写真めっちゃくちゃいい顔してたよ。』(A)と【昔の先輩たちの学習への感情の推測】(A)を行い、『僕、勉強が楽しいっていうのも変わらないんじゃないってこと』(A)と、【学びへのポジティブな態度の普遍性】(A)に気付いていた。更に、【継続的な努力】(A)や【成長のための努力】(B)の重要性、【指導と学び】(C)が成長につながっていることなどを認識し、講師②の振り返り学習よりも更に、昔の人の学びの姿勢に対する感想から「普遍的な学びの姿勢」への気付きを深めた。また、<考えの共有>の中で、『ぼくも書いた、それ、ぼくも、』(B)と【考えの共感と一致】(B)を示したり、『確かにこうは変わってない。変わってる?』(C)と【周囲との共有と確認】(C)をしたりしながら、「分類と整理」を行った。これらの活動を通じて、学びの整理が進み、児童間での理解が深まった。

“これからの学校について考える学習”では、これまでの<変化と普遍の気付き>を基に、<未来の学校への思考>へと移行した。児童は、「普遍的な学びの姿勢」の気付きから、【チャレンジ精神ある学校】(A)、【友好的で安心感のある学校】(B)、【安心感のある学校】(C)など、「築きたい未来の学校」の気付きへと変容した。この気付きは、講師①が抱く学校への思いから、【心地よさを感じる場所】(A)、【思い出としての価値】(A)、【ポジティブで温かい学びの環境】(B、C)などの「学校の価値」に対する気付きと関連していると考えられる。また、講師①のこれからまでやこれからの学校への思いから児童が気付いた、【歴史

と協力のつながり】(A、B) や【協同的な学校創造の認識】(A、B、C) を基に、【学校創造への自己の希望と意欲】(A) や【協同的な学校創造への向上心】(B) である「**学校創造**」への気付きとも関連していると考えられる。

更に、「**築きたい未来の学校**」を実現するために、『みんなが怒りそうな声で言わない。はい、えっと、怒らないようにする。でも、だれかにやられると、それなら怒っちゃうけど、やめてって言えばいいのかな。』

(B)、『これからもみんなでチャレンジっていうのが学校のためになるんじゃない。』(A) などと述べ、【友達関係の重要性と友達づくりの関連性】(A、C、B) や【対話による解決の重要性】(B)、【協同のチャレンジ精神】(A) など、自分たちが「**学校のためにできること**」を考えた。

これは、<考えの共有>と<未来の学校への思考>が関連している。つまり<考えの共有>において、『ちょっと、これ似てるやつなんだけど。チャレンジする学校といっぱい勉強できる学校とか。』(A)、『作るの同じじゃない？3個入れてもいい？そう、なめこと、納豆と、そう、豆腐。作るの一緒。』(B)、『どこにある？野菜じゃなかった。こっち？』(C) などと述べ、【学びの成長と挑戦の視点での整理】(A) や【作業学習での整理】(A、B)、【比較と確認】(B、C) などの「**視点による分類・整理**」をしていた。<未来の学校への思考>では、『半分自分のため、半分みんなのために？え、そう。学校のためには、チャレンジすると、パソコンも勉強に入るんだけど、でも、学校のためじゃない。えっと、あの、パソコンでは勉強ではできるけど、えっと、それは学校のためにもならないし、しかも、あの、たぶんパソコンは、たぶん違うと思う。』(B) と、【自己の目的と他者のための行動の共存】(B) や【学校全体の目的と自己欲求の違い】(A)、【学校全体のための行動】(B) などに気付いたり、児童相互の話し合いをとおして、『うん、自分気持ち。自分。』(C) と、【自己欲求】(C) に気付きが生まれたりしたことである。このように、他者を意識した『**学校のため**』の意味への気付きが、「**学校のためにできること**」の気付きにつながっていたと考えられる。

このことが、このあと、「**築きたい未来の学校**」を実現するために「**学校のためにできること**」の「**具体的方法**」として、【価値観の共有】、【デザインの工夫】(A)、【伝達と共有】【共有場所】(B)、【協力と分担】(A、B、C) などの実践的なステップへと広がった。

②<昔や今の学習への意欲>の変化と相互関係

“外部講師①の学習（講師①との授業・振り返り学習）”では、昔の学習を知る中で、休み時間にもスキーをしていたことを聞いて『え、休み時間いいな。いいなー。』(A) と感想を述べたり、アップルマラソンの写真を見て、『あ、前にぼくの家でやってた。やりたい。』(B) と言ったり、パソコンを使った学習を知り、『パソコンやってみたい。パソコンでマイクラやりたい。』(C) と発言したりするなど、【興味・関心と未経験な活動への挑戦心】(A、B、C)、【昔の学習への憧れ】(A、C) を示す様子が多く見られた。

“外部講師②の学習（外部講師②との授業・振り返り学習）”においても、新たな昔の学習活動を知る中で、『(ねぶたの話聞いて) ぼくは、笛やってみたい。』(B)、『ぼく納豆食べたい。やった、大豆作りしたいな。今度作ってみよう。』(C) といった発言が見られ、【興味・関心と未経験な活動への挑戦心】(A、B、C)、【好奇心】(A、B、C) が引き続き表れていた。つまり、講師①②の学習段階では、「**昔の学習活動**」、「**昔や今の学習活動**」への意欲が強く表出されていた。ただし、講師②の学習においては、このような発言は授業中に限られ、振り返りの場では<昔や今の学習への意欲>に関する発言が見られなくなった。これは、<変化と普遍的気付き>として「**昔の人の学びの姿勢・普遍的な学びの姿勢**」への気付きへシフトしていったことが影響していると考えられる。

また、“学びの整理”の学習段階でも、【興味・関心と意欲】(B、C) は見られたものの、発言は、『プールはやってみたい気持ち。』(B)、『豆腐。今度やってみたい。』(C) の2つにとどまり、<昔や今の学習への意欲>に関する発言が減少した。これは、“学びの整理”の過程で、児童の思考が、<変化と普遍的気付き>として、「**普遍的な学びの姿勢**」、「**学校の価値**」、「**未来への学校創造**」へとシフトしていったことに関連し

ている。また、この思考の視点の変化は、＜考えの共有＞における、【考えの共感と一致】(B) や【周囲との共有と確認】(C) といった「分類と整理」の過程を通じて、学級全体が同じ方向にシフトしていくことにつながったと考えられる

“これからの学校について考える学習” でも、【復活の願望】(B、C)、【未経験な学習の体験】(C) といった「昔や今の学習活動」への意欲に関する発言は減少傾向にある。これは、児童が＜未来の学校への思考＞へと発展し、「築きたい未来の学校」、「学校のためにできること」、「具体的方法」、「『学校のため』の意味」への気付きに関する発言が増えていることと関連している。

3 事後実態把握

児童3名のワークシートの設問1、2の記入内容を表3に示す。設問1では、事前に比べて自分の関心を基にした発想が減少し、代わりに「楽しい勉強がある学校」や「きれいな学校」、「がんばれる学校」、「いろんなものを作れる学校」、「パソコンがある学校」、「プールがある学校」など、講師①②との学習をとおして得た普遍的な学びや過去の学習から影響を受けた内容が多く見られた。設問2では、児童が自分の好きなものを基準に発想することは少なく、学校そのものや、学校の仲間、さらには未来のことなど、他者を含めた広い視野で考える傾向が見受けられた。

表3 「こんな学校になったらいいな」(事後)

	Q1 こんな学校	Q2 なぜ
A	遊ぶものがたくさんある学校	学校みんなが昼休みに楽しめるようにする。学校が幸せになってほしい。
	楽しい勉強がある学校	好きな勉強をすると楽しい気持ちになる。学校に行きたくない気持ちがなくなる。
B	きれいな学校	昔の学校もきれいな学校だったから
	がんばれる学校	できなかったら、やらなくなるから。
	いろんなものを作れる学校	中学部、高等部に成長するから
C	パソコンがある学校	大人になったらパソコンを使うから。
	プールがある学校	みんなが暑くて怒るかも。さっぱりするから。
	本がいっぱいある学校	頭が良くなるから。みんなが良くなる。
	果物の木がある学校	ビタミンがあるから、みんなの肌がつるつるになる。

V 考察と課題

本実践では、「他者意識」と「学習プロセス」を念頭に置き、学校と地域の効果的な学びの往還を通じてエージェンシーを発揮するための学習活動の在り方を検討することを目的とした。以下、3つの考察と1つの課題を示す。

1 児童の気付きをつなぎ、深める学習プロセス

本実践では、学習が進むにつれて、児童の＜変化や普遍性への気付き＞が連続的に変容し、＜未来の学校への思考＞へと発展していった。また、他者を想像しながら自己の思考を深めていく過程で、自分の視点で捉えている傾向が強い＜昔や今の学習への意欲＞に関する発言は少なくなる傾向が見られた。つまり、前述したエージェンシーの発揮に向けて必要だと考える「他者意識」の力につながる変容が見られた。これは、児童の自然発生的な発言だけでなく、次の2点が大きく影響したと考えられる。

1つ目は、外部講師と校内の学習をつなぐ教師の発問である。以下、児童の気付きと、その間の教師の発問である。教師の発問は『 』で示す。講師①との学習では、児童は昔と今の活動を比較する中で、「昔の活動」や「昔の人への思い」に気付いた。振り返り学習では、講師①が紹介した学習発表会や全国大会優勝時の昔の児童生徒の様子を提示しながら、『昔の人は、どんな気持ちで勉強していたのかな』、『優勝は簡単にできたのかな』と、他者の出来事を想像しながら思考する発問を行った。その結果、児童の気付きは、「昔の人への学びの姿勢」へと変容したと推測される。さらに、『全部変わってきたことだけかな。変わったことしかないかな。』という発問によって、【変化と努力、真面目さの普遍の共存】(B) への気付きが促された。講師②の学習の振り返り学習では、講師②が紹介した粘土焼成で生徒が泊まりがけで火の番をしたエピソードをもとに、『どんな気持ちで夜を過ごしていただろうね』、『(眠かった、地獄などの児童の発言から) それでも、なぜがんばることができたんだろう』と、他者の視点で考える発問を行ったことで、【共通の目標

に向かう意識】(B) という児童の発言が引き出された。更に、『みんなは、大変だなと思う勉強とかある？』、『そのときどんな気持ちでやってる？』と問いかけることで、『挑戦と克服】(C) に関する発言も見られた。また、講師①の学習で普遍性に気付いた児童の発言を例に挙げながら、『〇〇くんが、変わっていないこともあるよって言うけど、ありそうかな』といった発問を児童とのやりとりの中で繰り返すことで、【普遍的な「努力」と「協力」の精神】(A) という気付きが引き出されたと考えられる。

以上のように、学習間における児童と教師のやりとりを一部紹介したが、講師①②から得た児童の気付きを教師の発問によって量と質の両面でつなげることで、児童の思考が深まり、広がった可能性がある。つまり、振り返り学習では、外部講師との学びを単なる確認にとどめず、新たな気付きの契機とし、発展・深化させる教師の発問が重要な役割を果たすと考えられる。

2つ目は、気付きの共有と整理の工夫である。ワークシートで気付きを言語化した後、児童同士の意見共有、さらには全体での共有・整理の時間を確保することが、気付きの深化につながったと推測される。児童同士の共有の場では、①他者のワークシートを確認する、②分からない点を質問する、③内容が似ているものを仲間としてまとめる、という3つの手順を提示した。全体の共有の場では、児童同士で確認した内容を再確認し、全員が共有する時間とした。また、児童が整理しきれなかった内容については、教師が発問を通じて整理を促す場とした。これにより、学級全体で互いの気付きを共有し合い、自分の考えを広げたり深めたりする機会が生まれたと考えられる。

これらを踏まえると、外部講師から得られた学びと学校内での学びを効果的に結びつけるためには、外部講師の授業で生まれた児童の気付きを、次の授業でどう生かすかを計画することが不可欠である。計画にあたっては、児童の気付きに委ねるだけでなく、教師が児童の気付きを予測したり思考過程を想定したりし、ねらいをもって指導を進めることが求められる。ただし、エージェンシーの発揮を目指すためには、児童自身の思考を引き出し、児童が主導的に学びを進められるようなサポートを提供することが重要である。具体的には、教師は児童が自己の考えを深め、より良い方向に進めるように、適切な「視点」を示すことが必要である。例えば、児童が問題に対するアプローチを模索している際には、思考を広げるための発問をしたり、視野を広げるための異なる視点を提案することで、児童自身が思考を深めたり修正したりできるように導くことである。このように、教師は「進むべき方向性」や「改善のための視点」を示す役割を果たし、児童の気付きを生かした授業展開を心掛ける必要がある。また、児童の実態に応じては、発問の理解を助ける支援や共有方法を工夫することも重要である。

このようなプロセスを経ることで、外部講師を通じた学びは一過性のものにとどまらず、継続的な学びへと発展し、さらなる深化が期待できる。その結果、学校内の学びとも効果的に結びつき、児童の学びの成果を最大限に引き出す鍵となると考えられる。

2 共同エージェンシーの促進と学びの深化

エージェンシーを育むためには、多様な他者と協力しながら学びを深め、共に解決策を見出す「共同エージェンシー」の重要性が指摘されている。本実践における多様な他者とは、外部講師、児童、教師であり、例えば、講師との礼状を通じた手紙のやりとりで思いを伝え合うことや、児童同士の意見交換の機会を設けることで、相互関係を意識した学びを展開した。その結果、個々の気付きが、共通の目的意識をもった気付きへと変容していった。また、外部講師からの学びをもとに教師の発問で気付きを深めたり、児童同士の共有の中で考えを広げたり、全体での振り返りを通じて相互に学びを整理したりするなど、多様な他者との関わりの中で児童の変容が促された。

これらを踏まえると、学びの深化には、他者との交流の機会を設定するだけでなく、児童を取り巻く多様な他者が果たす役割や学びへの影響を考慮し、それぞれの関わりが相互に作用するような双方向的なやり取りの場を意図的に設けることが重要である。そのためには、他者との関わりが一方通行にならないよう、

アウトプットの方法や場の設定を児童の実態に応じて工夫し、適切な支援を行うことが必要である。また、外部講師との事前の打ち合わせを綿密に行い、ねらいや児童の学びの実態を踏まえた準備を整えることが不可欠である。こうした環境を整えることで、児童は他者とのコミュニケーションを通じて気付きや学びを深め、エージェンシーの発揮につながる基盤が築かれると考えられる。

3 児童の実態を踏まえた社会とのつながりを意識した資質・能力の設定

本実践では、エージェンシーを発揮することを目指し、児童が「他者意識」をもって考える力を育むことに重点を置いた。具体的には、児童が他者との関わりを通じて自分の考えを深め、他者の視点を取り入れながら、自分にできることを行動に移す力を養うため、外部講師との学習や振り返り学習を「他者意識」を中心に構築した。その結果、自己中心的な思考を超えて、他者との相互作用を意識した思考が展開される児童も見られ、エージェンシーの本質である他者との関係性を意識する一歩が育まれたことが示唆された。

この視点を踏まえると、エージェンシーの発揮に向けては、児童が自分の力を育むとともに、他者と共に社会でどのように貢献できるかを意識することが求められる。したがって、個人の知識やスキルに基づく能力は重要である一方で、教師は児童が自分の力を発揮できるだけでなく、児童を取り巻く他者の存在を意識し、その力をどのように他者との関わりの中で生かすかを考慮し、資質や能力を設定する必要がある。また、児童が自己の力を発揮しやすいように、周囲の環境や他者との関係性を意識した計画を立てることが重要である。

これにより、児童は「自分の力が社会や他者とどうつながるか」を意識し、自己の役割を理解しながら行動できるようになると考えられる。

4 日常的な指導を通じたエージェンシー発揮の土台づくり

本実践は16時間の単元を通して行われ、エージェンシーを発揮するための3つのポイントについて考察した。授業構成や授業内での工夫は重要であるが、それらを日常的に実施し、児童がエージェンシーを発揮できる土台を築くことが今後の課題であると考えられる。つまり、得られた示唆を単元内にとどめるのではなく、それを日常の学習活動に積極的に反映させ、エージェンシーを育む方法を継続的に工夫し続けることが重要である。そのためには、具体的な視点を整理し、学びが持続的に定着する取り組みを行う必要がある。例えば、児童が自ら考え行動できるような機会を日々の学習の中で意識的に設け、振り返りを習慣化したり、他者との協力を積極的に促す場を作ったりすることで、学びが一過性のものでなく、児童の行動として定着しやすくなる。最終的には、エージェンシーを育むための方法が日常的な学習活動に自然に組み込まれることを目指し、教師が計画を考え続けることが重要である。その点については、今後も更なる検討が必要である。

VI 参考・引用文献

紙田路子 (2021) 小学校生活科における歴史学習の可能性 ―歴史的实践に基づく小学校低学年の歴史学習。岡山理科大学紀要 第57号 B pp. 53-62.

小牧瞳 (2023) エージェンシーを発揮させる授業デザインに関する研究 人文公共学研究論集 第46号 10.20776/S24364231-46-P1.

松尾直博・柄本健太郎・永田繁雄・林尚示 (2020) 「生きる力」とエージェンシー概念の検討 ―中央教育審議会の答申や学習指導要領を中心に―. 東京学芸大学教育実践研究 第16集 pp. 147-158.

OECD Future of Education and Skills 2030/2040 Learning Compass 2030.

OECD Future of Education and Skills 2030/2040 Student Agency.

白井俊（2020）OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来:エージェンシー、資質・能力とカリキュラム.

白井俊 OECDにおけるAgencyに関する議論について

全国特別支援学校知的障害教育校長会（2019）知的障害特別支援学校における深い学びへのアプローチ.